

令和8年度 神奈川県立大師高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時 令和8年6月10日(水) 15時00分～16時30分

場所 大師高等学校 会議室

出席者 [委員]

加藤孝夫委員 増淵賢一委員 鈴木伸哉委員 奈良貴哉委員 中島まどか委員

[学校側(事務局)]

辻校長(副会長) 窪副校長 塩澤教頭 時田事務長 二見総括教諭

中村総括教諭 松矢総括教諭 古濱総括教諭 園田教諭 山下総括教諭

【第1部】 全体会 *司会：教頭

○開会のあいさつ・委嘱状交付 (校長)

生徒に寄り添う支援を心がける。また、学ぶことの楽しさを感じてもらえる授業づくりを目指す。在県外国人の生徒、経済面や学力面などで不安を抱えた生徒が多い学校である。教職員一丸となって生徒たちのより良い将来に向けて頑張っている。学校行事やキャリア教育も充実しているところは本校の強みである。

○出席者自己紹介・会長互選

互選により加藤委員を会長に選出

○令和8年度本校の学校運営について(副校長)

「令和8年度学校評価報告書」の目標設定を要約

【第2部】 部会

(1) 部会ごとの協議

Aグループ(学校生活サポート部会)

司会：教頭 書記：高橋大輔教諭

増淵委員 中島委員 二見総括教諭 松矢総括教諭 園田教諭

○協議内容

地域で生活する視点、保護者の視点から生徒指導上の課題・改善等についての検討

*生活支援について

(学校) 生徒支援の充実を今年度の目標にしたい。

元気な子に注視するあまり、特性や課題を持つ生徒への支援が不十分であり、充実させる必要がある。教育相談の体制を整え、教員間での情報共有と支援の充実を図る。

生徒の支援にむけてそれをフィードバックしていくことが大切で、それにむけて意見をいただければと思う。

(委員) 今年度の取り組みの職員間の情報交換とはどのように行っているのか。

(学校) 教育相談のサブ会議を月1回のペースで実施しており、情報共有を行っている。

(委員) 中学では週1回ほど主任の会議があるが高校はどうなっているのか？

中学では教育相談週間のとき、1対1で話をして課題のある生徒を個別に対応する形態をとっている。

SSWについて、高校では一校一人だが、中学校では地区に一人の割り当てである。高校の一校一人体制はスムーズに生徒支援へつながっていくのではないかと。

(学校) 兼任もあるが、SSW、SCが週1回は来てくれる体制を組んでいる。

(委員) 大師高校では先生と1対1で15分ほど話しているようだ。先生が寄り添ってくれる学校だと思っている。先生方に頑張ってもらっていると思う。

(学校) 生活支援の課題として、日々いろいろと起こるが、確立すべきことがまだできていないままが進んでいないかという実感がある。教員の異動もあるし、人が入れ替わっても継

続してグループのあり方を維持する素地をどうつくるかが課題である。

(学校) 中学校での職員の入れ替わりはどのような状況か。

(委員) 25 人が入れ替わったということも過去にはあった。

(学校) システム化はされてるのか。

(委員) 学校ごとに違う。経験者を残すか、または関わった人に聞いてなんとか繋いでいるという状況で確立されたやり方はあまりない。学校ごとの経験値に頼っている面が中学校の課題である。

* 生徒会支援についてサポート

(学校) 今年の重点課題は「協働的な姿勢」。社会に出てから、他者と関わるが増え、その際に求められる力を伸ばしたい。昨年は主体的に取り組む姿勢を身につけさせるために力を入れてきた。行事など魅力を発信する SNS の活用については、職員の入れ替わりが多く情報の伝達がいっできなくなってしまうのが懸念である。

行事のマニュアル化などに取り組んでいきたい

生徒には協働的な姿勢を育みたい。応援団や部活など横のつながりをつくって協力させることを試みる。また、いままでは特定の部に手伝ってもらっていたが、応援団も運営に関わらせるなどしていきたい。

(委員) 体育祭はよく頑張っていたと思う。例年より落ち着いているように思った。

(学校) 研究広報とも業務が重なるが、SNS を活用しつつ部活や行事の動きを地域や中学生に向けて発信していきたい。

(委員) 全公立展に資料参加ではなくブースを出展し、学校のことを発信してひとりでも多く伝えるべきではないだろうか。生徒会も動かすのは大変そうだがもっと動かしてみてもどうか。一方でイルミネーションなどはもう少し割愛させてはどうか。凝りだすと止まらない生徒も多い。思い出になることだが、もう少し抑えてもいいのではないか。

(学校) やりたいこととできることの兼ね合い、手伝ってくれる 1 年生や有志の人数も見つつ、できる最大限のラインを探していきたい。

(委員) 団旗と会長の兼ね合いは厳しいか。

(学校) 今年は団旗係を新設した。応援団以外で凝りたい生徒の活躍の場にもなり、棲み分けを始められた。

(委員) 生徒の主体的というが、係の生徒らの個人の活動になってしまうではないか。

(学校) 繫心祭では 部長会中心、文化祭では実行委員など、主体となる生徒たちの分担を作っている。一緒に頑張っている雰囲気を作っていくようにしたい。年々ブラッシュアップされていると思う。体育祭の種目も実行委員の意見を中心としており、自分たちで学校をつくっているという感覚を持たせたい。

* 総務関係

(学校) 環境・開かれた学校づくり・防災の三つの観点を意識して取り組んでいる。

課題としてはひとり一台端末について、昨年度から基本的に全員貸出できる準備をしている。今年度の 1 年生にもそうさせたいが、まだ県から端末が届かない。授業づくりにまだ活用できていないのが課題である。

(学校) 1 年生の生徒ロッカーは新しいものを使うという考えがある。しかし、それをきれいに使えないというのが課題である。次の 1 年生が使うという想像力がなく、それを育む指導も必要である。

(学校) 掲示物ついて貼りっぱなしで、情報伝達できていないのではないかと懸念がある。

(学校) 防災については、臨海部であるからこそ何かあったときの校内の体制づくりをしていく必要がある。

(学校) 中学校でのパソコンの状況はどうか。

(委員) 川崎はギガスクール構想があったからは早いうちに各教室にそろっている。リース期間が切れたら、と思うが GIGA スクール構想は今後も続いていくと考えられる。中学校では購入はさせていない。経済的負担も軽減できるし、高校でも貸出が充実していけばいいのではないか。中学校では自宅へ持ち帰ることも可能である。

- (学校) 紛失とかはないか。
- (委員) 特にない。
- (委員) 破損の問題よりもスマホ代わりに使うようなこともあり、そのほうが心配であった。ハード面での心配よりも使い方のほうが心配になるイメージである。
- (学校) 掲示物について、古いものが残されている。
- (委員) 中学校では広報委員などの委員会を活用している。掲示してほしいポスターを準備し、委員に貼らせる仕組みを作ると張り替えてくれるようになった。
- (学校) 中学ではパソコン端末の故障などはどうか。
- (委員) あまりない。よほど何かあった場合に教育委員会と連絡をとり交換した。別件で、返却されないということはあった。自宅へ訪問したり連絡がつかなくなったり、ということもあった。
- (学校) 中学校で紙に書くということはあるのか。
- (委員) 普段はノートを使っている。端末を使うのは意見の共有や調べ物など効果的な場面くらいである。
- (委員) 成果物の提出など実技科目などで使われている。締め切りの時間を設定して活用しているケースもみえた。
- (学校) すぐにできるものばかりではないが頂いた意見をもとに改善をしていきたい。

Bグループ（学習・進路サポート部会）

司会：副校長 書記：山下

鈴木（伸）委員 加藤委員 奈良委員 中村総括教諭 古濱総括教諭

山下総括教諭

○協議内容

進路希望実現に向けた学習支援、進路指導の取組みについて

*学習支援に関して

- (学校)：学習指導については、1つ目の軸として「学ぶ楽しさ」や「達成感を感じさせる」手法を職員間で学び合い、共有する。2つ目の軸として他者の考えや意見を効率的に共有できる手段としてICTを利活用した授業展開を推進する。この2つを軸として学習活動の質を高めていくことを目標とする。
- (委員)：2つ目の軸の他者とは誰のことか。
- (学校)：生徒のことである。
- (委員)：校内授業見学のフィードバックの方策として、定量的な評価はどのような数値です表すのか。
- (学校)：これについてなかなか難しく検討中である。
- (委員)：企業では、外部に委託して外部評価を取り入れている。
- (委員)：授業評価の数値を上げていくというのはどうか。
- (学校)：授業評価の生徒の評価については一律的な答え方が多くやや疑問がある。
- (委員)：ICTの利活用についてはどうか。
- (学校)：ほとんどの教員がICTを活用した授業を行っている。
集中力の問題で生徒がパソコンを使用するのは難しい。
- (委員)：AIの活用はどうか。
- (学校)：使用している教員もいて、仕事量の削減にもなっている。
- (委員)：情報リテラシーの教育はどのようなになっているか。
- (学校)：情報の授業で扱っている。
- *キャリア支援に関して
- (学校)：今年度は生徒と企業との関わりを増やすことを意識している。また、外部機関と協力して就職の筆記試験対策、面接試験対策をおこなう。
- (委員)：職業観をもたせるための取組みについては何かあるか。

(学校)：インターンシップや仕事の学び場などへ参加することを進めている。インターンシップには、事務や販売以外にも看護や保育系を考えている生徒にも参加させたい。

(委員)：これらの参加への告知はどのようにおこなっているのか。

(学校)：各教室での掲示、総合的な探究の時間やクラスルームを活用している。

*研究・広報に関して

(学校)：総合的な探究の時間に関して、昨年度より3年次生は前期に個々のキャリア探究を行うことに変更した。2年目となる今年度は取り組み内容や課題等について検討をおこないたい。

(学校)：広報については、全県的に県立高校の受検者数が減少する中で、本校もここ数年定員割れが続いている。これからは受検者数を増やすことを目的とした広報活動というよりも本校の魅力や特色を中学生に周知して、本当に本校に入学したい生徒に受検してもらうという広報活動を行っていきたい。

(委員)：全公立展の資料参加型とは何か。

(学校)：学校案内を中心に机一つのスペースで個々に中学生に対応する形態である。本校は今年度、この形態で参加することとした。

(委員)：文化祭の一般客の入場についてはどのようにしているのか。文化祭後の夕方に行われるイルミネーションの点灯式は、魅力的なものなので地域の方々にも見ていただけたらどうか。

(学校)：昨年度の一般客については家族+友人2人名までとした。また、学校説明会に来た中学生には優待券を渡している。夕方暗くなってから行われるイルミネーションの点灯式はセキュリティの点から生徒・職員に限定している。

(2) 協議の報告 (各グループ)

Aグループ

- ・行事について係の分担を意識して行う。生徒に任せる中で、こだわりすぎて消耗しすぎてしまうことは懸念点である。
- ・パソコン端末の全員分準備が難航している。川崎市の中学では使える環境が整っている。
- ・施設、設備をきれいに使えるように指導する必要がある。
- ・水害の危険がある地域なので引き続き防災体制を整える。

Bグループ

- ・定量的な評価をもとにした授業改善を行う。
- ・ICTの利活用について教員生徒ともに徐々に活用するようになっている。
- ・インターンや仕事の学び場の参加率は伸びてきているが、さらに伸ばすにはどうするのか。生徒により届く告知方法を模索する必要がある。
- ・進路指導、行事、教員の寄り添う姿勢など、本校の魅力を大いに外部に発信する。

(3) 事務連絡 (研究広報グループ)

第2回の学校運営協議会は11月に書面開催を予定している。第3回は3月上旬の土曜日の午後を予定している。

(4) 閉会のあいさつ

加藤委員長

- ・いろいろなところで先生方は努力している。今日的な課題も含め、どう前に進むのかを生徒と一緒に考えていることかと思う。委員らで知恵を出し合っていければと感じる。

校長

- ・いろいろな意見ありがとうございました。努力不足な点。見えていなかった点など色々見えてきた。1年間努力をしていきたい。